

常一小だより

3月号

令和3年2月26日

松戸市立常盤平第一小学校

児童数 132名

学校HPアドレス <http://www.matsudo.ed.jp/tokil-e/>

立つ鳥跡を濁さず

校長 平松 澄明

このことわざは、「立ち去る者は、見苦しくないようきれいに始末をしていくべき」という戒めで、「引き際は美しくあるべきだ」ということを表しています。学校でも年度末を迎えるとよく聞くものです。「立つ鳥」とは水鳥のことで、群れで生活していた時は波立っていた水面が、飛び立ったあとは濁ることなく清く澄んでいることから、このように言われています。イメージを壊すようですが、渡り鳥の営巣地はそれなりの生活痕があるので、少し離れたところから見ればこのような光景になるでしょう。洋の東西を問わず「引き際の美しさ」は、大切だとされています。

かつての勤務校に NEC グリーンロケットのメンバーが、ラグビー教室で指導にいらした時のことです。すべてが終わり、控室でごあいさつをしてお見送りをしようとした時に、全員で机の下までのぞき込んで、後片付けの確認をされました。実は、その前に別のプロスポーツの教室があったときには、選手の方々が飲みかけのペットボトルやゴミ等をそのままにしていたという苦い経験があったので、ラグーマンの行動がとても新鮮で清々しい気持ちになりました。そして、日本でのワールドカップ前でしたが、ラグビーという競技がより一層好きになりました。

このように「引き際の美しさ」は、周囲の人々に好印象を与え、頼もしさを感じさせます。このことわざは、「終わりが来たら後のためにその場をきれいにしなさい。」という単純なものではないと思います。それまでどんな行動をとっていたとしても終わりがきたら、自分の行動を見直して我が身を律することの大切さと周囲に与える印象を伝えているのではないのでしょうか。

本校の子どもたちも、6年生の卒業という旅立ちをはじめ、それぞれの子どもたちが一区切りをつけて次のステージへと向かいます。私たちは、学び残しの無いように気をつけて子どもたちを指導して、個々の成長を「確認」とともに、次年度に向けた課題を示す時期です。「〇〇ができた。」という成果も大切です、「△△が不十分だ」という自覚に基づく「だから、□□しなければ！」という課題への気づきも、次のステージにつながるものです。ですから私たちは、少しでも多くの成果と気づきをもたらせるよう子どもたちと向き合います。

今年度、コロナウイルス禍の中で子どもたちは、精一杯学校生活に取り組んできました。細かい点での課題もあるでしょうが、頑張ってきた子どもたちを認めて成長とともに喜ぶことで、次のステージに向かう「引き際」を見守ってください。ひと回り立派になった子どもたちの頼もしさを感じると、令和3年度を迎える期待がさらに膨らみます。がんばろう 常一小！

車やバイクから児童を守る！ (安全対策の一環として)

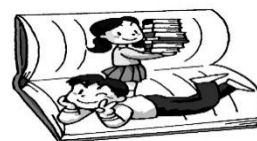


登下校時の児童の安全確保のため、来年度（4月）より順次「黄色い帽子」の着用を拡大します。松戸市ではこれまで1年生のみの着用が主流でした。しかし、他の自治体ではかなり前から小学生全学年着用としているところがありました。（「ちびまるこちゃん」の学校では全員着用していますね…。決して珍しいことではありません。）市内でも登校時の誘拐事件などをきっかけに、交通安全も意識して、児童の安全確保のために黄色い帽子の着用に取り組む学校が増えてきています。

常盤平は歩道や信号などが整備され交通安全への不安は低いのですが、人通りの少ない場所が多く、児童数の減少で登下校時の児童の存在感が薄いところがあります。黄色い帽子で、その存在感を目立たせることで安全確保に役立たせます。

新2年生は現在着用している帽子をそのまま使用してください。防止に付けていたワッペンや黄色いランドセルカバーは外してください。また、休み時間など校内で着用することはありません。これを続けることで、5年後には6年生まで全員が着用することも可能となります。

年間読書量ランキング (1月末現在)



読書と学習の相関関係があることは有名ですが、果たして本校の実態はどうなのでしょう。図書室の貸し出し本の状況を見ました。1月末現在で、令和2年度の年間を通し、85冊もの本を借りている児童がいました。分野別にみると、自然・理科・算数という理数系の本の貸し出しが多いようです。その次に、物語や絵本と続いていました。春を迎え、進級・進学を待つ3月は、好きな本1冊片手に過ごすのはいかがでしょうか。

スウェーデン刺繍の作品展示



なかよし学級の児童が、一針一針集中して刺繍糸を通し、それはそれはきれいな壁飾りの作品を作っています。作品作りにおいては、それぞれの児童が自分自身のオリジナルデザインをもち、幾何学模様にも根気強く挑戦していきます。指導する先生は、児童と楽しそうにしています。あっという間に過ぎていく時間。「先生、もっとやりた〜い！」との声が聞かれる時間帯でした。作品は昇降口近くの掲示板に掲示され、多くの児童に「すご〜い！」と魅入られています。

松戸市医師会の「まちっこプロジェクト」に奮って参加！

児童自身が主体性をもってコロナ禍の社会に生活していくために、標語やイラストの募集がありました。「本校児童が寄せたスローガン、「差別と偏見 悪いのは感染者じゃない」は、大人の心にも突き刺さります。正しい知識と思いやりの心でコロナ時代を乗り切りましょう。

なわとび名人現れる！

前跳び500回以上跳べた児童は12人。後ろ跳び300回以上跳べた児童は3名。二重跳び50回以上跳べた児童は11名。努力の賜物！素晴らしい！

